

## ■ 本文

※本文は学習用に作成した文章です。

(場面) ある宮仕えの女房と、その仕える姫君、姫君のもとを訪れた中将との、ある夕暮れのやりとりである。登場人物は、姫君 (高貴な姫)、女房 (姫君に仕える侍女)、中将 (姫君を慕う貴公子) の三人。

女房、夕されば格子を①下ろして、姫君に「中将殿、参り給ふ」と②申しければ、姫君うちおどろきて③起き給ふ。中将、簀子に④のぼり給ひて、「久しく⑤参らざりつる罪、いかで許され給はむ」と⑥のたまふを、姫君恥ぢらひて、御几帳のうちに⑦入り給ひぬ。女房、御文を⑧取りて中将に⑨奉れば、中将うれしと⑩思ひて、やがて⑪開け給ふ。文には、ただ「待つ夜の月」とのみ⑫書かれたり。中将、これを⑬見て、いとあはれに⑭おぼえ給ひて、しばし物も⑮のたまはず。

## ■ 設問 (全23問)

- 傍線部①「下ろし」の動作の主語は誰か。
- 傍線部①「下ろし」から②「申し」へは接続助詞「て」でつながっている。この「て」は主語の継続・転換のどちらの手がかりになるか、答えよ。
- 傍線部②「申し」の動作の主語は誰か。また、なぜそう判断できるか。  
主語  
判断の根拠 (敬語の種類にふれて答えよ)
- 傍線部②「申し」から③「起き給ふ」へと主語が変わっている。両者をつなぐ「ば」に着目し、なぜここで主語が変わると判断できるかを説明せよ。
- 傍線部③「起き給ふ」の動作の主語は誰か。また、敬語からどう分かるか説明せよ。  
主語  
根拠
- 傍線部③「姫君うちおどろきて起き給ふ」を、主語を明らかにして現代語訳せよ。
- 傍線部④「のぼり給ひ」の動作の主語は誰か。
- 傍線部⑤「参らざり」の動作の主語は誰か。また、この「参る」はどのような敬語か。  
主語  
敬語の種類
- 傍線部⑥「のたまふ」の動作の主語は誰か。
- 傍線部⑥「久しく参らざりつる罪、いかで許され給はむ」を現代語訳せよ。
- 傍線部⑦「入り給ひ」の動作の主語は誰か。
- 傍線部⑧「取り」の動作の主語は誰か。

13. 傍線部⑧「取り」から⑨「奉れ」への接続にも「て」が用いられている。主語は継続しているか、変わっているか。「て」の性質をふまえて答えよ。
14. 傍線部⑨「奉れ」の動作の主語は誰か。また、誰に対する敬意か。  
主語  
誰への敬意か
15. 傍線部⑩「思ひ」の動作の主語は誰か。
16. 傍線部⑪「開け給ふ」の動作の主語は誰か。
17. 傍線部⑫「書か」（れたり）の動作の主語（書いた人物）は、本文中の三人のうち誰だと考えられるか。文脈から答えよ。
18. 傍線部⑫「待つ夜の月」とのみ書かれたり、を現代語訳せよ。
19. 傍線部⑬「見」の動作の主語は誰か。
20. 傍線部⑭「おぼえ給ひ」の動作の主語は誰か。
21. 傍線部⑮「のたまはず」の動作の主語は誰か。
22. 本文中で、接続助詞「ば」「を」によって主語が転換している箇所を、傍線部の番号で二つ指摘せよ。
23. この文章全体について、①から⑮までの動作の主語がどのように移り変わっていくか、「敬語」と「接続助詞」を手がかりとして用いながら、百字程度で説明せよ。